

平成26年度 第6回 倫理審査委員会審議

申請者	腎臓内科医長	高島 毅
受付番号	14-38	
課題名	慢性腎臓病を対象とした酵素測定法によるファブリー病の診断	
研究の概要	<p>ファブリー病は透析患者の1%に存在し、慢性腎不全の予備軍である慢性腎臓病（CKD）においてもファブリー病の存在が疑われている。今回、佐賀県においてファブリー病スクリーニングを行う。方法は、協力医療施設においてCKDを有する患者にファブリー病を啓蒙し、検査を希望された方を対象に、問診票の記入と末梢ろ紙血による酵素測定法を用いた解析を行う。試料は佐賀大学医学部小児科で管理し、解析は熊本大学医学部附属病院小児科でαガラクトシダーゼを測定する。結果を佐賀大学医学部から各施設へ連絡する。陽性者については、佐賀大学での精密検査を勧める。本研究に参加した対象患者については、臨床情報を解析する。</p>	
判定	承認	計画どおり承認とする。

申請者	内科系診療部長／がん対策室長	綱田 誠司
受付番号	14-39	
課題名	がん対策の進捗管理のためのがん患者診療体験調査	
研究の概要	<p>全国のがん診療連携拠点病院で初回治療を受けた患者から無作為抽出した代表サンプルに質問紙調査でがん対策に関連した患者体験の調査を行う。</p> <p>当院では、国立がん研究センター研究班が抽出した調査対象者を確認し、調査可能と判断した患者については調査票発送に必要な患者氏名と住所を研究班へ提供する。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	看護学校教育主事	今村 嘉子
受付番号	14-40	
課題名	終末期実習終了時の看護学生の死生観と患者の死を経験した学生の学びの構造	
研究の概要	<p>家族構成、医療の変化により、病院で死を迎える病院死が8割を超えるようになり、終末期にある患者の看護は重要であるが学生の背景から、核家族の増加、病院死が増加した現在、看護学生が日常生活の中で死を経験する機会は少ないのが現状である。</p> <p>本校では成人看護学実習に「終末期にある患者の看護」を設定している。終末期の実習では、実際に看護学生が臨地実習中に患者の死を経験することがある。終末期にある患者や家族を前にすると、学生は戸惑ったり、逃避したり、患者のために何かできることはないかと悩み苦しむことも多い。その一方で、不安感や無力感だけで終わらない学生もいることも確かである。終末期に患者に関わった経験が、教育目標に設定した知識・技術の習得にとどまらず、学生にとって自己を内観し、看護観・死生観が深まり、視野を広げ、看護師としてのアイデンティティを確立させる上で重要な体験となる事もある。</p> <p>そこで、本研究では、終末期にある対象の看護を経験した学生の死生観を明らかにするとともに、受け持ち患者の死を経験した看護学生の感情、学びの様相を明らかにし、実習教育方法につなげることをねらいとした。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	副看護部長	倉富 明美
受付番号	14-41	
課題名	実習環境整備に伴う実習指導者及び看護学生に及ぼす影響	
研究の概要	<p>看護学生の実習を受け入れている病棟は、実習環境整備（物的・人的）が必要であり、それを効果的に活用することで、実習目的が達成されると考える。</p> <p>当院で実習を受け入れている看護学校より「学生は、どの看護師が実習指導者かわからない」「看護ケア用品が不足し、学校より持参している」などの実習環境に関する意見をもらった。そこで、看護ケアに必要な物品の準備、及び実習指導者専任化体制をとるなど実習環境の整備を行った。</p> <p>今回、実習環境整備が指導者及び看護学生にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにするため研究に取り組むこととした。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。

申請者	副院長	岡 忠之
受付番号	14-42	
課題名	本邦における肺切除術後脳梗塞に関する周術期、手術因子の解析	
研究の概要	<p>本邦における肺切除術後における脳梗塞の発症と周術期、特に手術術式における特徴を明らかにすることを目的とする。術前の患者要因・手術術式・術後管理などのデータを登録し、脳梗塞の発症に関する危険因子を分析検討し、その発生予防に努める。</p>	
判定	迅速審査承認	計画どおり承認とする。